

平成 23 年度 看護系学会等社会保険連合研究助成 研究報告要旨

※2500 字程度

1. 研究目的

本研究は、看護師が行う救急外来トリアージ（院内トリアージ）の有効性とトリアージ業務で必須となる応急処置の実際を評価するためにおこなった調査研究である。院内トリアージと応急処置の実施によって、患者への円滑な診療が可能になったかどうかを検証する目的でおこなった。

2. 研究方法

1) トリアージによる診療の効率化、医師・看護師の意識変化については、5ヶ所の救急医療施設でトリアージを受けた患者 1548 ケースとトリアージナース 98 名、救急医 31 名を対象に調査した。調査期間は 2011 年 4 月～2011 年 12 月で、学会が推奨する CTAS/JTAS プロトタイプ導入前後に調査する前後比較研究デザインを採用した。

調査項目は、「トリアージケースの概要」「トリアージに関わる時間」「トリアージナースと救急医による緊急度判定」「トリアージナースの判断能力」「患者の受付から診察までの待ち時間」などである。

2) 応急処置の実践内容と看護師の意識については、学会のファーストエイドコースを修了した 112 名（ファーストエイドナース）を対象にインターネットを利用した Web 調査を実施した。調査内容は、「トリアージ判定に基づく準備」「臨時応急の処置行為」「トリアージ後の応急処置に対する認識」などである。

3. 結果

1) トリアージによる診療の効率化、医師・看護師の意識変化

分析したトリアージ件数（患者数）は、導入前 807 ケース、導入後 741 ケースであった。JTAS プロトタイプ導入後、「受付からトリアージ」は 4.13 分、「トリアージ判定」は 1.03 分、「受付から診察」は 11.15 分の時間短縮があった。また、患者が体感した受付から診察までの時間においても、18.16 分減少した。オーバートリアージは、導入前後で 27.6%から 8.1%に減少、アンダートリアージは 10.2%から 2.5%に減少した。トリアージナースの判断能力は、アセスメント能力、批判的思考能力、モチベーションにおいて有意に上昇していた。

2) 応急処置の実践内容と看護師の意識

1～5 ポイントで評価した結果（数値が高いほど実施している、または意識が高い）、「トリアージ判定に基づく準備」3.6、「臨時応急の処置行為」3.5、「トリアージ後の応急処置に対する認識」3.8、などとなっていた。応急処置の内容としては、止血、除細動、酸素投与、血管確保、点滴、外傷創・鼻出血の圧迫止血、手動的気道確保検尿、心電図、血糖チェックなどの行為があった。

4. 考察

院内トリアージの有効性については、看護師によるトリアージシステムの活用によって時間短縮が認められ、オーバートリアージとアンダートリアージ率も大幅に減少したことがわかった。応急処置における看護師の判断能力も向上し、救急外来でトリアージと応急処置をすることで、救急対応への意識向上を認め、処置に対する自信もつき、他職種との有効な連携ができる可能性が見出された。